

**【第284号 紙面案内】**

第2～6面……理事会報告、第68回全国研究大会報告、各地域部会関連  
第6～8面……産学交流シンポジウム案内、第69回全国研究大会関連

## 関西部会からのメッセージ

関西部会長 佐々木 利廣（京都産業大学）

急遽巻頭言の依頼を受けたこともあり悩んだ末、関西部会の現状と今後について感じることを述べて責務を果たしたい。関西部会は年2回関西大学と大阪ドーンセンターを会場に例会を行っている。いずれも3名の報告者の報告と質疑を主にしながら懇親会を含めて日本マネジメント学会員の相互学習と相互親睦の場になっている。関西部会の歴代部会長のリーダーシップのもと、若い院生の研究報告の場として、さらには実務家との相互交流による実学一体の場として大きな役割を果たしてきた。ただ部会参加者の固定化や高齢化を含めて様々な課題もあり、新たな展開が必要になっていることも事実である。

関西部会活性化にむけた取組みとして必要なことは、第一は部会で報告したいという報告希望者をいかに増加させるかである。そして年2回の部会報告と全国大会報告をいかに連動させるかである。当然のことながら理想は部会での報告と討論をもとに、よりリファインした内容を全国大会で報告し、その後学会誌に投稿するという循環である。若手・中堅の研究者のなかで、こうした循環が少しずつではあるが回ってきていることに期待したい。そして初めて報告する学会員に対する情報提供の意味でも、各回の報告討論内容をできるだけ詳しく提供することも必要であろう。この点は会報という媒体を通じて工夫したい。

第二は、実学一体のスタイルをより進めることである。たとえば毎回というわけにはいなくても、報告者3名のうちの一名は非学会員の実務家による講演等を工夫するという取組みも必要である。他の部会での実践例を参考にしながら実践していきたい。

第3は、関西部会のなかで共同プロジェクトや共同研究が盛んに行われるような仕掛けが必要である。関西部会メンバーによる共同研究の成果が部会で報告され、全国大会を経て最終的には共著という形での論文や著書出版につながる事が理想である。そのためには単発の部会報告だけで終わらないより長期的視野が必要である。もし会報やHP上の関西部会案内のなかで興味のある報告テーマがあれば、ぜひご参加いただければ幸いです。自由にご参加いただけます。

いずれにしても院生や中堅若手の研究者が気兼ねなく報告し討議できるような雰囲気に関西部会にすることが部会長の責務だと感じている。

**理事会報告**

日時：平成 25 年 10 月 18 日(金)

場所：九州産業大学 1号館 10階 中会議室

議題

(1) 全国研究大会の件

第 68 回全国研究大会（九州産業大学：平成 25 年 10 月 18 日～10 月 20 日）が開催される。また、第 69 回全国研究大会（文京学院大学：平成 26 年 5 月 30 日(金)～6 月 1 日(日)）の準備状況が報告された。

(2) 会員入退会の件

入会（個人 10 名、法人 1 社）、退会（個人 1 名）が承認され、合計（個人 695 名、法人 5 社）となったことが報告された（平成 25 年 10 月 18 日現在）。

(3) その他

①組織委員会より、産学交流シンポジウム（東洋大学：平成 25 年 11 月 30 日）の統一テーマと概要案が報告された。

②国際委員会より、韓国経営教育学会への派遣報告者を大会期間中に決定するということが報告された。

## ◇◇第68回全国研究大会・企業見学記◇◇

亀倉 正彦（名古屋商科大学）

全国研究大会初日、株式会社ふくや（本社福岡市博多区）の明太子工場「博多の食と文化の博物館ハクハク」（福岡市東区）への見学を行った。当社は創業 1948 年で、日本で初めて明太子の製造販売を手がけたことで有名である。2013 年は創業者の川原俊夫氏の生誕 100 周年でもあり、このハクハクはこれを記念して 4 月にリニューアルオープンしたばかりの工場である。

最初の「ビデオ説明」では、当工場の博物館としての諸特徴だけでなく、そのルーツが韓国にあり、創業者の俊夫氏が幼少期に知った韓国ミョンテの味の再現を目指したことが紹介された。次に「工場見学」では、スケトウダラの工場内の運び込みから加工工程までが全自動化され、ISO（環境と食品安全）を取得したその一端を垣間見た。他方で、仕分けと箱詰めは人の手により丁寧に行われ、検査工程では官能検査の味見スペシャリストが特殊能力を発揮している人的な側面も持っていることを知った。その後、館長の佐伯様による「質疑応答」が行われ、安定した漁ができるか不透明なため川上統合には限界があること、明太子が生ものであることから全国展開せず（東京 2 店を除く）直営販売にこだわること、パスタとの相性からアジアでの国際展開を進めていることなどのお話があった。

全体として、今回の統一論題に相応しい、福岡という地域に根ざした経営理念とマネジメントを感じる意義深い企業見学であった。

## ◇◇第68回全国研究大会・参加記◇◇

大杉 奉代（香川大学）

日本マネジメント学会第 68 回全国研究大会は、2013 年 10 月 18 日(金)から 10 月 20 日(日)までの 3 日間にわたり、九州産業大学で開催された。統一論題のテーマは、「地域における企業家とマネジメント」であった。

18日の企業見学では、この4月にリニューアルオープンしたばかりの、ふくや明太子工場「博多の食と文化の博物館ハクハク」を見学した。

19日は、統一論題を中心に議論が行われた。古川隆氏による「崖っぷち社長の逆転戦略」、井上善海先生による「スモールビジネス・イノベーション」、伊原ルリ子氏による「女性の自立が日本の未来を変える」、杉田あけみ先生による「女性の自立と企業におけるジェンダー平等」の報告がなされ、コメンテーターによる報告のまとめと問題提起がなされた。

特別講演は、株式会社ふくや社長の川原正孝氏による「私の経営理念」であった。人を活かす経営と、経営理念に基づく企業経営の重要性について講演いただいた。

懇親会では、川原俊夫氏生誕100周年記念「ふくや明太子パスタ」、西日本冷食「筑紫金うなぎ」、九州産業大学経営学部事業開発コース学生栽培・製造・販売「玉ねぎドレッシング」のサラダなどをおいしくいただいた。

20日は、前半のセッションで統一論題が行われた。廣田稔氏による「起業家支援の経営実践」、亀川雅人先生による「起業家育成の知的インフラ形成について」の報告がなされ、コメンテーターによる報告のまとめと問題提起がなされた。後半のセッションでは、自由論題の研究報告8本と、帰朝報告1本が行われた。諸先生および、院生の多岐にわたる研究テーマ報告に対し、活発な議論が行われた。

最後に、本大会の準備・運営にご尽力をくださった篠原淳先生、小野瀬拓先生をはじめ、九州産業大学のスタッフの皆さま、企業見学にご協力いただいた株式会社ふくやの方々、ご多忙中、特別講演をお引受けくださった川原正孝氏、ご報告くださった古川隆氏、伊原ルリ子氏、廣田稔氏に厚くお礼を申し上げたい。

## ◇◇北海道・東北部会の開催報告◇◇

加藤 和美（北海学園大学大学院経営学研究科）

**演題 1** ドイツにおける敵対的企業買収規制の現状

報告者 石巻専修大学 三森 敏正先生

**演題 2** 被災地における経営者教育

報告者 石巻専修大学 杉田 博先生 石巻専修大学 三森 敏正先生

### <演題 1 概要>

ドイツは、上場会社が少ない。ドイツでは敵対的買収の対抗策への関心は希薄である。そこに、Vodafone 社 vs. Mannesmann 社事件により、防衛策として EU 支配獲得指令導入の必要性が生じた。そして、2007 年有価証券と支配獲得法、WpÜG 改正。例外規定として、取締役会は監査役会の同意を得ることで、株主総会の関与がなく、買収防衛措置を執ることが可能となる。これは、監査役会という共同決定が特徴である。

ドイツでは、敵対的買収はほとんどない。なぜなら、金融機関がそれに対して融資はしないからである。日本の場合は、判例上、株主の意思を確認した上での取締役会が防衛措置を認めている。(ブルドックソース事件) ダイエーを例に、日本の株主総会で株主提案が通る事はない。今後の問題探求課題に挙げられたのが、経営において、企業価値とは何か。客観的検証が難しい。社会的妥当性から鑑みて、時代によって変えていくのが良いのか。支配力基準の鑑定に関する問題はどうか。

### <演題 2 概要>

震災 2 年を経て、石巻水産業の現状に関する報告。今後の課題に、後継者育成、人材教育に関して。経営は、今後も続くため、大学教員は教育の場を作らなければならない。そのた

めには、経営、法人、学問が横断的に関わる必要性がある。

今年7月石巻専修大学にて「経営道フォーラム」を、大学生、石巻信用金庫経営塾塾生、山城経営研究所経営道フォーラム49期参加により開催。グループによるワークショップ・プレゼン実施。交流の中で、ネットワークづくり、学生にとって知識とつながる場でもあり、成長をもたらす場となった。勉強ではなく、異業種がグループとなり、共同ですするというのがよかった。今後の課題に、今回のようなスタイルをカリキュラムにいれる、経営学教育のスタイルの一つとすることが挙げられた。

### <概評>

今回は、わからないことを、確認しながら報告内容の理解を深めていく、勉強会の雰囲気を出していた。石巻の復興状況に関する報告は、学部生の参加もあったことで、学部生は自分の現状や背景を基に、積極的に聞くことが出来た。発表会というよりも、疑問点はフリースタイルで質問し、現状と復興過程、復興への努力、人のつながり、むすびつきなど東北文化を参加者で共有することができた。今後も参加型で望める部会スタイルを期待する。

## ◇◇関東部会開催のご案内◇◇

開催校担当教員：中村 公一（駒澤大学）

●日 時：平成25年12月14日(土) 14:00～17:30

●場 所：駒澤大学 駒沢キャンパス 1号館203教室

(最寄駅：東急田園都市線 駒沢大学駅 徒歩10分)

### ●報告プログラム

※報告：40分、コメント・質疑20分

#### 第1報告：14:00～15:00

報告者：久保田 達也（成城大学） 積田 淳史（武蔵野大学）

テーマ：「研究者の開発活動と成果：基礎研究所を対象とした質問票調査」

コメンテーター：山崎 秀雄（和光大学）

司 会：今井 重男（千葉商科大学）

#### 第2報告：15:10～16:10

報告者：仁平 晶文（東京経営短期大学）

テーマ：「伝統と革新をつなぐオープンな徒弟制度

－古典芸能の世界における人材育成制度を題材にして－」

コメンテーター：吉村 孝司（明治大学）

司 会：服部 治（松蔭大学）

#### 第3報告：16:30～17:30

報告者：濱田 初美（立命館大学）

テーマ：「日本のエレクトロニクス産業の再生について

－マネジメント課題をいかにクリアするか－」

コメンテーター：中村 久人（東洋大学）

司 会：松本 潔（産業能率大学）

●参加費等：参加費1,000円、懇親会費3,000円

平成26年度第1回関東部会は立正大学（平成26年4月26日）で開催いたします。ご参加の程よろしくお願ひいたします。また、報告者も募集しておりますので、報告を希望される方は応募先までご連絡をお願い申し上げます。

●お問い合わせ：関東部会長・手塚 公登（045-962-6181 [tezuka@seijo.ac.jp](mailto:tezuka@seijo.ac.jp)）

## ◇◇中部部会開催のご案内◇◇

中部部会長 堀田 友三郎 (東海学園大学)

日本マネジメント学会中部部会では、下記のとおり第48回中部部会を開催いたします。皆様奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。

●日 時：平成25年11月16日(土) 14:00～17:30

●場 所：東海学園大学栄サテライト

●プログラム

報告 (報告35分、コメント10分、質疑15分)

第1報告：14:00～15:00 石原 俊之 (扶桑町商工会)

「プレミアム商品券事業の実態について (仮題)」

司会・コメンテータ：村橋 剛史 (朝日大学)

第2報告：15:00～16:00 藤井 健太郎 (東海学園大学大学院)

「経営理念の浸透活動—三法人の事例を中心に—」

司会・コメンテータ：辻村 宏和 (中部大学)

講演 (講演60分)

16:15～17:15 櫻井 克彦 (東海学園大学) 「CSR経営とその課題」

司会：堀田 友三郎 (東海学園大学)

議事：17:15～17:30

参加費等：参加費500円、懇親会費4,000円

懇親会参加と出席連絡のお願い：懇親会にご参加いただける方は11月9日までに、中部部会事務局・藤木 善夫 (東海学園大学 みよし市福谷町西ノ洞 21-233 TEL: 0561-36-5555、fujiki@tokaigakuen-u.ac.jp) までご連絡ください。

お問い合わせ：詳細につきましては、上記藤木にお問い合わせください。

※中部部会では随時報告者を募集しております。ご希望の方も上記、藤木宛にお知らせください。

(\*会報委員会より：中部部会の開催が会報発行前後になるために、学会HPには事前に掲載しております。)

## ◇◇関西部会開催のご案内◇◇

関西部会長 佐々木 利廣 (京都産業大学)

秋晴れの候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。さて、平成25年度日本マネジメント学会関西部会第2回例会を下記のとおり予定いたしております。皆さま奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。

日 時：平成25年11月30日(土) 午後1時30分

場 所：大阪府立女性総合センター (ドーンセンター) 4階中会議室

(京阪天満橋駅・地下鉄谷町線天満橋駅：1番出口から東350m；JR東西線大阪城北詰駅2号出入口から西へ550m)

TEL：06-6910-8500

会 費：500円



## ＜報告会＞

第1報告：13:40～14:15（報告35分、質疑15分）

報告者：堀野 亘求（京都産業大学大学院）

テーマ：中間支援組織論の現状・課題とコレクティブ・インパクトへの動き

第2報告：14:35～15:10（報告35分、質疑15分）

報告者：陳 惠貞（関西大学大学院）

テーマ：情報社会における企業統治構造とその有効性の検証

－日台の比較研究を中心に－

第3報告：15:50～16:25（報告35分、質疑15分）

報告者：槇谷 正人（摂南大学）

テーマ：ダイナミック・ケイパビリティの実証的解明

－組織ルーティンの考察を通して－

## ＜懇親会＞

時間：午後5時30分～

場所：水蓮月 天満橋店（京阪本線天満橋駅 徒歩1分）

会費：3,000円

## ※お問い合わせ先

関西部会長・佐々木 利廣（sasaki@cc.kyoto-su.ac.jp）

関西部会幹事 堀野 亘求（京都産業大学大学院）

携帯電話：090-8165-1809

E-mail：horino@osakanpo-center.com

## ◇◇産学交流シンポジウムのご案内◇◇

産学交流委員会

下記要領にて第1回産学交流シンポジウムが開催されます。テーマは、「異分野から学ぶ、これからの人材育成」です。どうか奮ってご参加ください。

- ・日時 平成25年11月30日(土) 14:30より
- ・場所 東洋大学 白山キャンパス 8号館 8階 125周年記念ホール

## ・報告者

柳内 調風 氏（柳内伝統音楽院）

神山 清明 氏（一般財団法人国土災害管理財団）

佐伯 雅哉 氏（産業能率大学総合研究所）

## ・タイム・スケジュール：

14:30 - 14:35	挨拶
14:35 - 15:20	柳内氏報告「徒弟制度による人材育成」(45分)
15:20 - 16:05	神山氏報告「海上自衛隊の人材育成と強い組織づくり」(45分)
16:05 - 16:15	休憩
16:15 - 17:00	佐伯氏報告「人材教育における暗黙知の位置づけとその扱い－『本音』を磨き、活かすという考え方－」(45分)

17:00 - 17:45	パネル・ディスカッション
17:45 - 17:50	挨拶
18:00	名刺交換会

・参加費

シンポジウム：1,000円 名刺交換会：2,000円

## 第69回全国研究大会・自由論題報告募集

平成26年5月30日(金)～6月1日(日)に文京学院大学において開催される第69回全国研究大会の自由論題報告を募集します。下記要領に従ってご応募下さい。

### 1. 応募資格

本学会の会員。ただし、1年以内に報告された方の応募はご遠慮下さい。

### 2. テーマ

本学会の目的に沿う以下のもの

- ・経営体の諸活動に関する実践的経営の研究
- ・日本的経営および国際的経営の研究
- ・経営者・管理者の実践的能力を育成するための経営教育の研究

### 3. 応募書類

応募には表紙、報告要旨、参考文献の3点が必要です。

- ・表紙（A4サイズ1枚）……以下を必ず明記してください。

①氏名（漢字・仮名および英語表記）

②報告テーマ

③所属（現職および職位）

④連絡先（自宅および所属先の電話番号・FAX番号、E-mailアドレス）

- ・報告要旨（A4サイズ、用紙縦置き横書きで2枚以内）

要旨には問題意識、論点、結論等を必ず含めてください。

①字数は2,000字以内（40字30行）、10.5ポイント、余白は上下左右各25mm

②報告テーマはゴシック体、要旨は明朝体

- ・参考文献（A4サイズ1枚）……書式は報告要旨に準じます。

参考文献は内容と密接に関係するものにとどめ、関係の薄いものは控えてください。

上記書類を下記締め切り期日必着にて電子メールまたは郵送でお送りください。

### 4. 締切

平成26年1月31日(金) 必着

### 5. 応募先・問い合わせ先

日本マネジメント学会事務局（担当：魚住 良三）

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋4-8-4 株式会社山城経営研究所内

TEL：03-3264-2100 FAX：03-3234-9988 E-Mail：name@kae-yamashiro.co.jp

## 【次回大会開催校からのお願い】

## 会員大学の産学連携動向に関するポスターセッション開催のご案内 および Call for Paper の募集

第 69 回全国研究大会・大会実行委員長 櫻澤 仁（文京学院大学）

マネジメント領域の教育・研究の展開に際しては、各大学ともに産学連携に力を入れておりますが、その方法論は多種多様であり、また地域間格差もあるように見えています。さらに当該領域の推進担当者であるならば、産学連携が「華麗なネットワーク」のようなものではなく、むしろ「人間臭い営み」であることに気づいているはずです。

次回の第 69 回大会では、試行的に会員大学の産学連携動向（官学、産官学を含む）に関するポスターセッションを開催することといたしました。この新企画は各大学の産学連携自慢を意図するものではなく、むしろ問題点や苦労話の共有化、成果表出や実績評価の方法論検討、新たなパートナー開拓の方法論検討、新たな大学間ネットワークや共同運営システムの創出等を促すものであります。

ここでいう産学連携とは、全学ベース、学部ベース、個人ベース等の様々なパターンがあると思われませんが、この連携パターンに関しては、特に指定はありません。

開催校といたしましては 5～6 校のポスター提示を予定しておりますが、この新企画にご協力いただける方は、自由論題報告の締切日（平成 26 年 1 月 31 日）に合わせて、A-4 用紙 1 枚にて、展開中の産学連携の概要・特徴・強調したい事項等を整理の上、学会事務局までお送りください。

なお、本件に関するお問い合わせは、文京学院大学の櫻澤までお願い致します。

<連絡先：sakurazawa@bgu.ac.jp>

## 機関誌委員会からのお知らせ

機関誌委員長 樋口 弘夫（和光大学）

機関誌への次回投稿の締め切りは、2014 年 1 月 31 日（金）です。なお、投稿規定、執筆要領、組見本を遵守ください。詳細は学会 HP でご確認願います。

### 本棚～会員の最新刊著書を紹介します～

- ・渥美育子著『「世界で戦える人材」の条件』 820円＋税 PHP 研究所
- ・児玉敏一・佐々木利廣・東俊之・山口良雄著  
『動物園マネジメント：動物園から見えてくる経営学』 2,600円＋税 学文社

### 編集後記

今年も残り2か月ですが、関東部会、中部部会、関西部会の3つの部会と、産学交流シンポジウムが開催されます。ぜひともご参加下さい。

会報委員会一同

発行 **日本マネジメント学会**  
(旧称：日本経営教育学会)

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 4-8-4  
株式会社山城経営研究所（担当：魚住）  
TEL 03-3264-2100 FAX 03-3234-9988  
E-mail: name@kae-yamashiro.co.jp  
URL: http://www.nippon-management.jp/

印刷 株式会社ドットケイズ 〒103-5206-1626  
E-mail: win@good-ks.co.jp